

刊行にあたって

2020年に世界を襲った新型コロナウイルス感染症によって、私たちの行動と意識は大きく変わり、他人との身体的・心理的な距離を常に意識するようになりました。ただし、他人との身体的な接触が激減した一方で、オンラインでの情報のやり取りは激増しています。Web会議が瞬く間に普及し、物理的な距離や国境を越えた相手と映像情報をやり取りすることがとても容易になりました。

コロナ禍の世界を描いた短編映画として、中国のジャ・ジャンクー監督が2020年4月に公開した『来訪』(英題は『Visit』)が話題になりました。『来訪』は、映画制作の打ち合わせを題材にした約4分間の作品です。来客は、家の入口で検温を求められ、握手を避け、お茶の代わりに消毒液が出されます。打ち合わせの後、2人はお茶を飲みながら試写を観ます。その映像には、暗い中で波のように動く人びとが映っています。みな同じ方向を向いている様子は、映画館で映画を観ている観客を思わせます。ただし、人びとの視線が上向きであることを考えると、視線の先にあるのはスクリーンではなく、映写室で試写を観ている2人であるようにも思えます。映画を作った人が観客を見ており、観客もまた映画を作った人を見ているという構図です。

コロナ禍の前から、インターネットによる動画配信が普及し、テレビ局のスタジオからの放送ではなく自宅などの日常生活の現場から映像が発信されることが増えてきました。コロナ禍でのリモートワークの普及によって私生活にカメラが入る映像発信が日常化することで、映像の送り手と受け手の境界が融解しつつあります。『来訪』のラストシーンは、映画を通じて映像の作り手と受け手がつながっている様子をとてもよく表しています。

コロナ禍以前では、「流れ」は好ましいものとされてきました。「流れ」は外の世界から人や物や情報をもたらし、それによって人びとの暮らしを豊かにするという考えのもと、世界は「流れ」を増やす方向に進んできました。

島国ならば海が「流れ」をもたらしますが、大陸で「流れ」をもたらすのは川です。川は、人びとに生活用水や食料を提供するとともに、人や物を運ぶ手段にもなり、人びとに豊かさをもたらす存在です。その一方で、川は地域や国の境界を越えて流れることから、ときに外部世界から災いをもたらす存在でもあります。本論集では、大陸

部東南アジアの5つの国にわたって流れる国際河川であるメコン川に目を向け、越境する災いについての映像を読み解いています。

また、本論集では、島嶼部東南アジアのインドネシアとシンガポールのホラー映画についても考察しています。「怖さ」は国籍や民族によらず誰もが抱く感情であるため、映像で恐怖を与えることで観客を愉しませるホラー映画は世界各国で作られ、観客を怖がらせる手法は国や地域の境界を越えて伝わっていきます。

その一方で、何を怖いと感じるかは社会や文化の影響が大きく、ある国や地域で人びとを怖がらせるものが、別の国や地域ではあまり怖いと感じられないこともあります。東南アジアのホラー映画には、外国人の観客の目にはあまり怖くないにもかかわらず、地元の国では多くの観客が劇場に足を運ぶ人気作品であるものが少なくありません。本論集所収の2つの論考では、インドネシアとシンガポールのホラー映画を題材に、社会と文化の側面を通じて怖さを読み解いています。

混成アジア映画研究会は、東南アジアの映画を対象として、日本語字幕の作成、上映会・シンポジウムの開催、映画と社会に関する記事執筆を行っていますが、2020年には上映会やシンポジウムは開催できませんでした。

毎年3月に大阪アジア映画祭との共催により一般公開シンポジウムを行い、その記録を論集に採録してきましたが、2020年は新型コロナウイルス感染症のためシンポジウムが中止になりました。

毎年7月末には京都でヤスミン・アフマド監督追悼の上映会「わすれな月」を開催していますが、2020年には開催できませんでした。そのかわりということではありませんが、京都大学のオンライン公開講座「立ち止まって、考える」の地域研究・メディア学「メディアとコミュニティ——東南アジアから考える」の第4回「映像メディアとコロナ後の世界」(<https://youtu.be/uAGgvyzMpOw>)では、ヤスミン監督のテレビ広告『葬儀』の日本語字幕版を公開しています。

2021年に入ってもまだ暗いニュースが続いていますが、ヤスミン監督の『タレントタイム』の日本語字幕付きDVDが3月に発売されるというとてもうれしいニュースがありました。混成アジア映画研究会の前身はマレーシア映画文化研究会で、その結成の目的はヤスミン監督の映画のDVD化を実現することでした。研究会としてもDVD化をととても喜んでおり、お祝いの気持ちを込めて、DVDの解説冊子の制作に協力するこ

とにしました。『タレントタイム』のDVDは各通販サイトから購入できますが、解説冊子付きの『タレントタイム』DVDは、『マレーシア映画の母 ヤスミン・アフマドの世界——人とその作品、継承者たち』の版元である英明企画編集からのみ販売の予定です。

ここに挙げたもの以外を含めて、混成アジア映画研究会の活動は研究会Webサイトで紹介していますので、そちらもご覧ください。

この論集に所収の各論考は、京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」の公募共同研究「東南アジアにおける内戦の語り直し：映画を活用した試みに着目して」(研究代表者：篠崎香織)および同「東南アジア大陸部の厄災の文化誌——川をめぐる伝承・文芸を中心に」(研究代表者：橋本彩)ならびに科学研究費補助金「東南アジア映画の物語と表現を読み解く——地域研究と映画史研究の連携」(研究課題番号20H01201)による研究成果の一部です。研究会の活動にご理解とご協力を下さっている機関や方々に感謝申し上げます。

京都大学東南アジア地域研究研究所
山本 博之